

# 文学・歴史の深層

—文学・歴史を創った人々とその背景—



10月7日(土)

天明文化の東西 — 蕪村と葛重 —

山本 陽史 氏 (山形大学学術研究院教授・  
東京大学生産技術研究所リサーチ・フェロー)



10月21日(土)

『おくのほそ道』〈最上川〉の条を読む  
—〈褻〉と〈晴〉の視点より—

復本 一郎 氏 (神奈川大学名誉教授・国文学者)



10月28日(土)

坂本龍馬の史実と受容  
—歴史上の人物はコンテンツ文化とどう関わるか—

石川 忠司 氏 (東北芸術工科大学教授・文芸評論家)

- 時間：午後2時から3時30分まで(受付は午後1時から)
- 会場：山寺芭蕉記念館 研修室1
- 受講料：各回500円
- 受講定員：各日50人(先着順で定員になり次第、締め切りますので、お早めにお申し込みください。)
- 申し込み：山寺芭蕉記念館まで

電話(023-695-2221)またはFAX(023-695-2552)で、「氏名、電話番号、参加日」をお知らせください。申込受付は開催日の前日まで。当日申込不可。

主催 山寺芭蕉記念館指定管理者 公益財団法人山形市文化振興事業団 協力 山寺観光協会



HP

10月7日(土)



## 天明文化の東西 — 蕪村と蔦重 —

山本 陽史氏 YAMAMOTO Harufumi

◇市民文化が開花した江戸天明年間(1781~89)を、西は与謝蕪村、東は2025年NHK大河ドラマの主人公出版人蔦屋重三郎と山東京伝・十返舎一九・歌麿・写楽ら周辺の人物を取り上げ俯瞰します。

〔講師のプロフィール〕

1959年、和歌山県生まれ。東京大学大学院で近世日本文学を専攻。現在、山形大学教授(エンrollment・マネジメント部主担当)。東京大学生産技術研究所リサーチ・フェロー、山寺芭蕉記念館運営懇談会委員、日本世間学会代表幹事、日本トランペット協会副会長、眺海の森音楽祭実行委員。イタリア・ポローニャ市と交流する市民の会「チェントロ・ポルティコ」顧問。ポローニャで俳句ワークショップ等を開催。2005年山形県松山町(現酒田市)文化功労表彰、2014年山形市市政功労表彰(教育・文化等)。

著書に『なせば成る!』『江戸見立本の研究』(共に共著)『東北から見える日本』。論文に「東日本大震災と世間」、映像作品(脚本)に『奥の細道 百代の過客』『階は長にして』(出羽三山開山1400年記念番組)など。山形新聞連載「やまがた再発見」寄稿者。2017年酒田市立松山小学校校歌を作詞。山形コミュニティ新聞に「判官びいきの系譜」を連載中。

10月21日(土)



## 『おくのほそ道』〈最上川〉の条を読む — 〈藝〉と〈晴〉の視点より —

復本 一郎氏 FUKUMOTO Ichiro

◇芭蕉の『おくのほそ道』中の〈最上川〉の条を、私の「読み」の視点である〈藝〉と〈晴〉により読み解いて、皆様にお示してみたいと思います。〈藝〉とは「わたくし」、〈晴〉とは「おおやけ」のことです。〈五月雨をあつめて早し最上川〉誕生の謎解きです。

〔講師のプロフィール〕

1943年、愛媛県宇和島市生まれ。横浜翠嵐高等学校卒。早稲田大学大学院文学研究科博士課程修了。国文学者。文学博士。静岡大学教授を経て、現在、神奈川大学名誉教授。俳句集団「阿」の会代表。俳号、鬼ヶ城。

著書(含編校注)に『子規紀行文集』『正岡子規ベースボール文集』(以上岩波文庫)、『笑いと謎—俳諧から俳句へ—』(角川選書)、『俳句と川柳』(以上講談社学術文庫)など。『正岡子規伝—わが心世にしのこらば』(岩波書店)で第76回芭蕉祭文部科学大臣賞を受賞。公益財団法人神奈川文学振興会評議員。産経新聞〈テーマ川柳〉選者。第18回現代俳句大賞受賞。第70回愛媛新聞賞受賞、第71回神奈川文化賞受賞。

10月28日(土)



## 坂本龍馬の史実と受容 — 歴史上の人物はコンテンツ文化とどう関わるか —

石川 忠司氏 ISHIKAWA Tadashi

◇坂本龍馬のほか、源義経、土方歳三など歴史上の人物はマンガやゲーム等のコンテンツに繰り返し登場します。そうした場合、史実とフィクションの関係はどうなっているのでしょうか。また時代劇というメディアは衰退していく一方、歴史上の人物は相変わらずコンテンツの中に引用され続け、人気を得ています。今回の講演では坂本龍馬を中心的な題材とし、歴史上の人物とコンテンツの関係について、文学理論的に考察していきます。

〔講師のプロフィール〕

1963年生まれ、東京都出身。立教大学文学部ドイツ文学科卒。1989年に「修行者の言語 中原中也試論」で群像新人文賞優秀賞受賞。現在、東北芸術工科大学文芸学科教授、文芸評論家。

著書に『極太!! 思想家列伝』(ちくま文庫)、『孔子の哲学』(河出書房新社)、『現代小説のレッスン』(講談社現代新書)、『衆生の倫理』(ちくま新書)、『新・龍馬論』(原書房)、『吉田松陰 天皇の原像』(藝術学舎)、『文学再生計画』(神山修一との共著、河出書房新社)などがある。

FAX用 お申し込み用紙 (FAX023-695-2552)

ふりがな お名前		電話番号	
ご参加の回に○印をお願いします。		10/7	10/21
		・	・
			10/28